

# 環境新聞

## コベルコが見出す 循環ビジネス 次代の旗手たち

▶▶28

福岡県北九州市で廃棄物の収集運搬、処分を手掛ける西原商事のグループ会社、ビートルマネージメントは全国展開する小売業などを対象に、独自に開発したシステム「beetle」を活用して廃棄物を一元管理するサービスを提供している。排出事業者は同サービスを導入することで全国の店舗で廃棄物を統一した基準で管理でき、事務作業やコスト軽減が図られ、適正管理が実現する。現在全国に約2万店舗あるとされるスーパー・小売店の6割に当たる約1200店舗に導入されており、今期中にはさらに約400店舗増え8%となる見込み。同社の西原靖博専務は、「今後5年以内に20%以上」を目標に掲げる。(黒岩修)

かなければならない状況だ。こうした部分をわれわれ業者が導入するメリットには、①クラウド管理②の適正化③リスマネジメント④循環型社会の構

## 排出事業者の適正管理を支援

## 独自システムで廃棄物一元管理

## 全国小売業の20%導入目指す



西原靖博専務

## ビートルマネージメント(福岡県)

資源循環



ビートルマネージメント本社。西原商事グループのロゴ「BEETLE」は地元でお馴染み



自社でシステム開発を行っていることが、他社との差別化につながっている

コスト削減になり過ぎて不適正な処理を行っているかなどを調査し、合理的で適正な処理方法を提案することも適正コストの維持を図る。「水や電気は使用量によって料金が決まるが、廃棄物の量は業者の自己申告による場合がほとんどで分母がわからない状態。われわれがきちんと納付できる分母を測れるようにして、店舗ごとにコストを見直すとともに、処理業者が適正に処理できる金額を割り出し、双方が納得できる契約にしていく前には、できるだけ事前に「経営理念には「誠実」「感謝」「勤勉」を掲げ、廃棄物処理・リサイクル関連事業を通じて広く社会で期待され、信頼される企業となること」を目標とする。また、従業員には「自分の子供を働かせたいと思う会社づくり」を求める。西原商事のキャッチフレーズとして、「BEETLE」のロゴをあしらった収集運搬車は地元ではお馴染みとなっている。今後は全国で「BEETLE」の認知度向上を目指す。(C)コベルはコベルコ建設の提供で、月1回の連載でお送りします。

物管理でき、適正管理のこと。全国の収集運搬業者などのネットワークも構築しており、各地で適正な価格で適正な処理を行う業者の斡旋も行っている。自らシステム開発を行っているが、顧客のニーズに合わせた廃棄物管理システムの構築

全国に店舗をチェーン展開するスーパー、ディスカウントストア、デパートなどでは、全店舗統一した基準で廃棄物を管理でき、逆に

きたい」とする。さらに目指す方向は「静脈物流のマスマーケティング」だ。「beetle」に蓄積されたデータを活用することで、全国で効率良い運搬を行うことができる。これはCQ削減にもつながる。さらに各店舗から出る資源を買い取って、良い条件で販売して、「beetle」を考えている。